



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第58回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

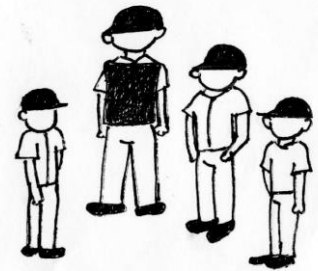
グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

### マナー編 審判員の留意事項

試合前、通常は球場本部前で、両チームの主将・責任教師・監督・ボールボーイが集まり、攻守決定等を行います。この時審判委員から多くの指導事項の説明が入りますが、その内容が主将を通じてチーム全員にうまく伝わっていないこともあるのではないのでしょうか?

第一試合は開始時刻の1時間前、第二試合目以降は4回(あるいは5回)の後攻チームの攻撃終了時に、球審を務める者が立ち会って攻守の決定を行うほか、試合進行上の重点事項を説明することになっています。

この時、球審の注意説明は、「××してはいけない」「〇〇してはいけない」と禁止事項のみだったでしょうか? 両チームの主将はここで聞いた内容を試合前にメンバー全員に伝達することが求められています。しかし、メモでも取らない限り全部正確に記憶もできないでしょうし、それ以前になぜ「禁止」なのかの意味についても、主将が正しく理解できていなければ、審判員がいくら熱心に説明しても意味のない時間になってしまいます。



せつかくの説明を正しく理解してもらうためには、**審判員が、「お互い××しよう」、「〇〇しよう」というように積極的な行動内容の表現を使って、指示として伝えることが効果的**ではないのでしょうか。

日頃の練習試合での鍛錬により、重点事項を十分実践しているチームが多数あることを審判員も十分理解し、公式戦に臨みたいものです。

### ルール編 テンポアップへの取り組み

公式戦はもとより、練習試合でも複数の審判員が試合に立ち会った際には、必ず試合終了後に「試合進行」「審判技術」「ルール適用事項」他について反省会を行い、次に活かすことにしています。

その中で、よく試合進行について、試合遅延の原因として、投手のリズムを問題(ロジンバックを頻繁に使用、牽制球が多い)にするケースがあります。ロジンバックの使用、正しい牽制球(走者をアウトにしようとして送球する)は、ルール上認められたものであり、これを問題にする前に、もっと遅延した理由はなかったのかを検証する必要はないのでしょうか。

例えば、「**投手が投手板につかない**(野球規則8・04(2)《(前略)これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につくこと》に違反)」「**打者が打者席まで歩いてくる**(野球規則6・02(a)《打者は自分の打順がきたら、速やかにバッタースボックスに入って、打撃姿勢をとらなければならない》に違反)」するようなことを見逃してはいなかったでしょうか?

試合進行において、「ルールに反する遅延行為はなかったか」、「選手に無駄な行為(ボール回しを守備位置より前に出て行う。投手にボールを持っていく。)はなかったか」という視点が重要ではないでしょうか。

